

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 11 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503692		
法人名	有限会社 どんぐり村		
事業所名	グループホーム どんぐり村		
所在地	〒729-0111 広島県福山市今津町1456-1 (電話) 084-933-6138		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471503692-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471503692-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域との絆を大切にし「ゆっくり・楽しく・自分らしく」をモットーにひとりひとりに合わせたケアを行いご本人・ご家族様とのコミュニケーションを大切にしながら笑顔で一緒に過ごせるよう心掛けています。 又ご本人、ご家族様のご希望があればターミナルケアも行っています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームどんぐり村は、木造2階建ての1ユニット9名のアットホームな雰囲気のあるホームです。近くの川土手には桜並木があり、彼岸花や季節の花を楽しみながら、毎日の散歩コースにもなっている。地域の方が、よく声をかけてくださり、地域のふれあいサロンに参加したり、神社の秋祭りに神輿が来てくれたり、又、新鮮な野菜も近所から届く。外出の機会も多く、紫陽花寺や菊花展に出かけ、外食したりと生活に変化があり、利用者一人ひとりに対して、きめ細かな対応をされている。時には元職員の子供や現職員の孫の来訪もあり、利用者の笑顔も一段と微笑ましい。多くのキャリアを積まれた管理者を中心に穏やかな一日を過ごされている。</p>
---

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議で理念を掘り下げて職員全体で話し合い一人ひとりにあった具体的なケアについて意見の統一を図っている。	どんぐり村の理念である ゆっくり・楽しく・自分らしくを掲げ、いつも笑顔があふれ、家族に安心してもらえ又、スタッフは、将来ここで暮らしたいと思えるホームを目指し、実践に繋げている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として 町内の行事に参加させてもらっている。河川敷の清掃参加(年4回) ふれあいサロンの参加(月1回) 又、散歩時等 挨拶や話等したり 月1回 地域住民の方が来訪され 利用者とともに歌やゲームをして交流している。	地域との交流も盛んで、盆踊り、ホテルのタベ、秋祭り、ふれあいサロン、童謡の会との交流等、地域に根ざしている。又、認知症アドバイザーとして、地域の人の相談にのったり、出前講座の講師として、地元へ貢献されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	オレンジアドバイザーに登録し 地域の人の相談を受けている。又、地元の2つの高校の出前講座、高校のインターンシップを受け入れ等 福祉の仕事の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で G.Hの状況等を話し合い 地域の人達の意見も伺って参考にさせてもらっている。 (例)ボランティア等の受け入れ G.Hの行事参加の依頼(避難訓練) 会議には 地域包括の職員、消防署、女性会、民生委員の方達や利用者が交代で参加してくださっている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、包括支援センター職員、町内会長、女性会、民生委員、消防署、利用者家族、利用者、管理者、職員が参加して、ホーム運営、活動状況、地域との交流状況 報告を行い、助言等をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する説明会への参加や情報の提供を行うとともにわからないこと、困った事 相談し助言を受けている。インターネットで 情報収集し わからないことは 直接 市役所の窓口相談に行っている。	介護保健課や地域包括支援センターと密に連絡を取り、情報交換をし、協力体制がある。包括支援センターの依頼により、認知症アドバイザーとして、講師を引き受ける事もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部の研修に参加し その資料を持ち帰り 施設内研修を行っている。職員会議等で ケアを振り返り 気づかないうちに言葉をさげざったり 気持ちを押しつけていないか確認している。また 職員同士 見守りの方法を徹底し 利用者のその日の気分や 状態を見ながら 自由に暮らせるように支援している。	身体拘束に関しての研修等により、すべての職員が、正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の虐待防止の研修会に参加したり その資料を活用して 施設内研修を開催し 虐待のないよう話し合いの場を持っている。世の中のニュースなどを見て職員同士 日々のケア再確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議等で勉強会を開いている。 権利擁護に関する外部の研修に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時、利用者、その家族の方と十分な話し合いを行い理解と了解を得ている。介護報酬の改定や制度改正等により変更時も利用者、その家族に説明し理解と了解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族の要望に添うよう努めている。 (例:家族の依頼により主治医以外への通院介助、買い物への付き添い、利用者様の家への電話等) ご家族様には手紙や来訪時電話等で問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	運営推進会議や面会時等を利用して、意見や要望を聞き、出た意見は出来るだけ要望に添えるよう支援している。(買い物や墓参り・通院等への付き添い)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議で意見を聞いている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け問題や提案等その都度解決を図っている。	日頃から、管理者やリーダーは、職員とコミュニケーションを密にとり話しやすい関係にある。意見や要望を聞き、運営に反映させている。(杖置き場の設置・日程変更等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況等により昇給、ボーナスの支給がある。又向上心を持って働けるよう介護福祉士手当等定めている。 職員の疲労やストレス要因について気を配り気分転換できる休憩室を確保したり職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の情報を収集し研修へはなるべく多く言ってもらえるよう機会をもうけている。研修報告書を全員が閲覧できるようにしている。G.H内でも月1回研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	[福山西南部ケアマネジメント協議会]への参加 「福山地域タウンミーティング」に参加 他のG.Hとの相互訪問をすることによりサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談で生活状態を把握するよう努めたり 本人との十分な話し合いにより 要望を聞いたり 不安等を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族の苦労やサービス利用状況、経緯などについて ゆっくり話を聞きG.Hとして どのような対応ができるか 家族と事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始前に 職員が会いに行ったり サービスの利用開始時 本人が安心し 大丈夫と言われるまで 付き添っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め お互いが協働しながら ともに支えあう関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の日頃の状態を報告、相談するとともに 来訪時はご本人と家族の潤滑油になるよう心がけている。何時でも 家族へTEIできる体制が整っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの関係が持続出来るようサポートしている。(例 電話) 地域に暮らす馴染みの友人と 継続的な交流が出来るよう働きかけて いる。	利用者の友人が尋ねてきたり、電話を掛けたりと馴染みの関係を継続出来るよう支援している。又、馴染みの美容院やスーパーにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり 相談にのったり 利用者同士の関係を把握し 楽しく過ごせる場面作りをするなど 利用者同士の関係がうまくいくように 職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報連携し すべての職員が 共有 出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者さんが 入院しても お見舞いに行ったり 洗濯物を取りに行ったり 亡くなくても葬儀に参列し 家族等の話を聴いたり 相談にのっている。また 退所後も家族からの相談に のっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりのなかで 本人の言葉や表情などから 暮らし方や希望などを確認するようにしている。意思疎通が困難な方などは ご家族などから 情報を得るようにしている。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。以前の生活歴より、畑仕事が好きとかハーモニカを吹く事とか、読書の習慣とか継続出来るよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し 生活歴や馴染みの暮らし方を把握するようにしている。(例:花を植える。梅干し、団子作り等)又 家族にどんな生活をしてきたかなど話を聞いて 協力などを得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解したり 生活面や心理面の状態を把握し できる事に注目し その利用者の全体を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族には 日頃のかかわりのなかで 思いや意見を聞き 反映 させるようにしている。又 サービス担当者会議などで 職員、多職種の方で 利用者本位で話し合い 気づき、意見、要望を反映した 介護計画の作成に努めている。	介護計画は、利用者本人が、より良く暮らすための課題やケアのあり方について担当者会議を開き、利用者・家族・管理者・ケアマネ、時には医者も参加して、話し合い、検討して、その方に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入し 職員間で情報を共有している。また 月に 支援経過に 記録、本人の状況を把握し 介護計画を見直すかどうかの判断をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の思いを傾聴し 本人主体の生活が送れるよう配慮している。(例:外食、足浴等、散歩等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方の避難訓練の参加 地域行事の参加(盆踊り、秋祭り、とんど、茶飲み会等) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員、地域の方の参加で関係が強化され 情報交換、協力関係が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1度の主治医の往診 又 緊急時は夜間 問わず すぐに往診にきてくれる G.Hの協力医のほか ご家族希望のかかりつけ医での医療を受けられるように 支援して 複数の医療関係と関係を密にしている。	入居時に利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医は選択でき受診の支援をしている。受診結果は家族に電話で報告している。又、24時間体制で対応してくれる医療体制も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の情報や気づきを伝え 相談している。又 薬の変更や通院時も記録に残し 情報を共有している。1週間に1回 健康面や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時 すべての情報を提供している。退院については 家族と話し合い本人にとって良い方法を選んでもらっている。入院時 2~3日に 1回は 職員が見舞うようにしている。又 退院後も回復状況の報告をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合 終末期について 本人、家族、主治医と何度も話し合いを持つ機会を作って 安心して最期を迎えられるように意志を確認しながら取り組んでいる。	契約時に重度化・終末期について、説明しているが、重度化に向かう段階でその都度、家族の意向を確認し、主治医を交えて話し合いを重ね、安心して最期を迎えられるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えてマニュアルの作成 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。外部の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策のマニュアルの作成 地区の災害対策への参加 年2回 利用者とともに 避難訓練を行っている。 地域の協力体制は 運営推進会議にて呼びかけている。	消防署の指導の下で行い、自主的に実施するのを合わせると年4回、避難訓練を行っている。今年の5月、昼間に、近隣から火の手が上がり、職員の咄嗟の対応で、利用者が混乱することなく、建物の外まで誘導され、事なきを得て、日頃の訓練のたまものと思われる。	夜間想定して、夜勤専用の職員による避難訓練を実施されることを希望します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が 必要なきも 本人の気持ちを大切に考えて さりげないケアを心がけたり 自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	利用者の個々の生活歴や家族からの情報を把握しており、職員間で利用者を中心として誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員側で 決めたことを押し付けるようなことはしないで 本人の思いを傾聴 どのようにしたら良いか その都度 聞くようにしている。(外出、食事の内容、体調の悪い時の臥床)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが 一人ひとりのペースを大切に し それに合わせた対応を心がけている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人にとっての思いを尊重し 服の購入時は 一緒に行って購入することもある。更衣時 好みの服を選んで もらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しむことが出来るよう 土筆、イモづる等を一緒に下ごしらえしたりしている。 食事時 一緒に下ごしらえした食材について話をしながら食事をしている。	職員は、利用者の好みを把握し食べやすさにも配慮して楽しく食事を作っている。又、近くの畑で出来た作物と一緒に収穫して、豆のさや取りや枝豆ご飯、栗ご飯を楽しみながら作業をしている。柏餅づくり・梅干し、ラッキョウづくりも楽しみながら、作業されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量 1日の量を記録し 一人ひとりの状態を把握している。 食事が少ない利用者さんには 個別に 高カロリー一掃食品や本人の好物や食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来る方は 声掛け見守りをしている。(利用者の状態に合わせて対応している) 毎食後に 行っている。夜間は 義歯は 預かり 消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の様子から 察知し 身体機能に応じて 手を差し伸べたりしている。トイレでの排泄を大切に 紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。尿意がない利用者も排泄チェック表を使用し 時間を見て誘導し トイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターン表を作成し、自立に向けて個別に声掛けや誘導しながら、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・水分量を記録し 水分補給を心がけている。又 排泄チェック表に記録し 便秘にならないように 食事などの工夫をしたり 運動を行っている。 トイレ時 腹部マッサージをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴が嫌いな人もいるので 声掛け等に気をつけている。洗髪、入浴を拒否された場合 時間をあけて声掛けしたり入浴日を変更して行っている。	入浴は毎日できるが、利用者の希望に沿って週3回程度としている。拒否傾向のある人には、声掛けや職員間で意見交換して入浴していただけるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し 生活リズムを整えるようにしている。眠れなくて 眠剤を飲まれている方には睡眠状態を観察・記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的、副作用、用量等は理解し 主治医と連携を密にしている。 薬の処方や用量が変更された時 本人の状態変化が見られるよう記録を取っている。		

グループホーム どんぐり村

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう お願いできそうな仕事を頼み 感謝の言葉を伝えるようにしている。 (洗濯たみ、干し柿作り、イモづるの下ごしらえ)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	河川敷や近くのお寺へ散歩に 行ったり お弁当を持って 花見に出かけたり もみじ狩りに行ったり 外食したりと 戸外へ積極的に外出している。	近くに景色の良い散歩コースがあり、日課のようにして散歩に出かけている。又、近隣の方にコスモス鑑賞に誘われたり、蛍の夕べに参加したり、紫陽花寺に行き「陸月の六のつく日は紫陽花を吊るして無病息災を願う日」とされたりと施設内に閉じこもらないように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て お金を持って 買い物と一緒に行って 支払いを自分で行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望に応じて 日常的に 電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾り 季節感を味わえるように 心がけている。季節を感じられる飾り付けをしている。	玄関までスロープになっているので、車椅子使用も可能。居間と食事をとる部屋は別になり、ゆったりとした空間となっている。壁には、お月見や秋の草のタペストリーが飾っており、季節を感じさせる。利用者一人ひとりの居場所がそこにある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では それぞれにあった椅子、ソファがあり 1人で過ごしたい人用に 少し離れたところに椅子を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具やタンス・写真など 思いでの品々が 持ち込まれ それぞれの利用者の居心地のよい空間を作っている。	タンス・鏡台・家族の写真・貼り絵作品等、利用者の使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人にとっての思いを尊重し 服の購入時は 一緒に行って購入することもある。本人にとって「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し状況に合わせて環境整備に努めている。混乱状態や失敗が生じたときは その都度 職員で話し合い 本人の不安・混乱材料を取り除き 自立支援につなげている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム どんぐり村

作成日 平成 27年 11月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時（火災・地震・水害等）の地域の協力体制及び災害時の備品の準備	地域住民・警察・消防署・多事業者との日頃からの連携 災害時に必要な物品の確認及び準備	避難訓練に地域住民の参加協力を得ながら行う 地域運営推進会議で施設の状況を報告し支援の呼びかけ 消火器や避難経路の確認・備品のリスト作成・準備をする	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。